岐路に立つ美術館
－別府大学芸術文化学科1999年度記念講演会の記録－

1999年11月25、26の両日、別府大学芸術文化学科は、新たな試みとしてスターとしたばかりの専門科目「ミュゼオロジー」の将来の多産を希って、スイスから二人の若手美術史研究者を迎え講演会を開催した。以下の講演原稿はそのほぼ完全な記録である。

講演者の一人マルクス・シュテークマン氏（Herr Markus Stegmann、図1）は現在、スイス、シャフハウゼン市美術館の学芸員であり、現代美術に関する論文、著作も多く、また、現職に就いてからは現代美術に関する多くの興味深い展覧会を企画している。一方、マリアンヌ・ヴァッカーナーゲル氏（Frau Marianne Wackernagel、図2）はヨーロッパ有数の近代美術館であるスイス、バーゼル市近代美術館に付設する版画室の助手を勤め、美術品収集、作品管理の専門化として活躍している。

シュテークマン氏の第一講演は、現代美術キュレイションのエキスパートとしての立場から、90年代、先鋭化の一途を辿った現代美術の展覧会企画を巡る多様な問題をその議論の俎上に載せ、続いて、氏の勤務するシャフハウゼン美術館の、彼の地では必ずしも稀有とは言えないものの、本邦では決して出会うことのない、同館の極めて特殊な性格、場合によっては、というより、一般的な視点からは明らかに障害とみなさざるを得ない特異性を、寧ろ展覧会企画の独創的転回点として利用した氏の貴重な経験から導き出された「領域横断的展覧会」企画について8つの視点を、いわばコンセプチュアルに略述したものである。続く氏の第二講演は第一講演に直接するもので、シャフハウゼン美術館に於いて、同氏が企画した二つの極めて独創的な展覧会を紹介している。シャフハウゼン美術館の出自と現代美術のエコロジー的側面を、半ば肯定的半ば批判的に接続した、ともに「有機体」を扱う二つの展覧会企画は、今日、展覧会を企画するということが如何に困難な課題を学芸員をはじめとしたスタッフに課すものであるか、と同時にしかし、そのような困難に目を背けることなく、いわば戦略的にその困難を克服したとき、如何に豊穣なる可能性がわれわれの目前に開かれるかを教えてくれる。特記すべきは、それら二つの企画に通底する、決してオプティミスティックでない、いわば「クールなヒューマニズム」とも言うべき「視点」の存在である。

一方、ヴァッカーナーゲル氏の第一講演は、「保存するということ」が、美術館に於いて具体的には如何なる「手続き」を採りながら遂行されていくものかを、徹頭徹尾経験的日常的な視点から略述したものである。貴重なのは、講演の半分近くを占めるバーゼル美術館の沿革概要、同館の版画室が所有する諸作例の紹介である。氏の第二講演はキュレイターとして氏が携

わった、一見地味ながら大変貴重な二つの展覧会を紹介したものである。展覧会の企画立案から、展覧会開催初日、開催期間中、更に期間終了に至るまでに、学芸員をはじめとしたスタッフが、具体的にどのような困難に直面するかを詳述したものだが、そこからわたしたちが学ぶものは大きいと言わなければならない。本邦の学芸員が、半ば職掌の規制から、半ば謙譲の美徳に鑑みて、その「仕事」に対して比較的寡黙であることからも、美術館の側からのまことに正攻法な氏の「主張」は、本邦に於いてとりわけ貴重である。

末文ではあるが、本講演会開催に当たって、遠くスイスから駆けつけて素晴らしい言葉の数々を私たちの学科に残して下さった二人の講演者と、講演会の主旨を理解下さり、ご助力を惜しまなかった、多くの方々、就中、別府大学理事長西村駿一氏、同大学学長中村賢二朗氏、並びに文学部長後藤宗俊氏のお三方に深甚の敬意と感謝の意を表する次第である。また本学科で学び、引き続き本学大学院で研鑽を積みつつある学生諸君の献身的なサポートは取り分け印象的であった。因みに２人の講演者は、本学科講演後同主旨をもって立教大学に於いて講演しているが、その折本学科助教授安松みゆきが通訳を担当している。立教での講演会を快諾して下さった立教大学文学部教授でかつて本学科の前身即ち美学美術史学科に於て教鞭を採られたこともある名取四郎先生に深甚の謝意を捧げたい。また以下に掲載する講演会の記録は当時本学科に籍を置いていた現國學院大學哲学科助教授宮下誠氏によって講演会両日を通じて通訳されたものをそのまま原稿として起こしたものである。シュテークマン氏とヴァッカーナーゲル氏は宮下氏がバーゼル大学に留学中の同僚であり、このことが本講演会実現の直接のきっかけとなった。最後に宮下氏に心より深甚の感謝を申し上げたい。なお本講演会は本学科教授仲嶺眞信のコーディネートに拠るものであり、全体の責任は専ら仲嶺に帰するものであることを附記しておく。（仲嶺眞信・安松みゆき）

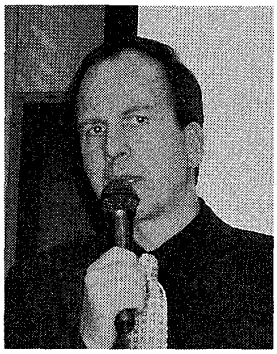
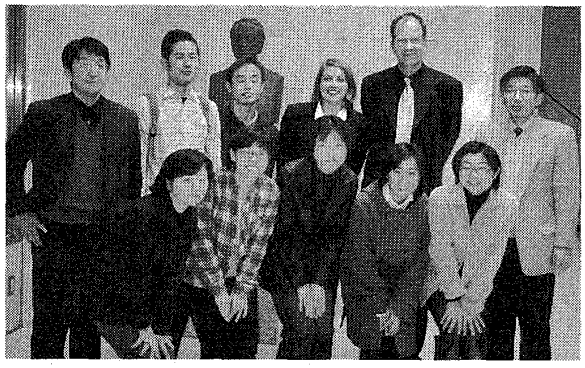


図１
マルクス・シュテークマン氏

図２
マリアンヌ・ヴァッカーナーゲル氏



講演後の記念撮影　99年11月27日